資料１

実行計画策定までの今後の進め方について

平成２７年７月

小田原市エネルギー政策推進課

第１回エネルギー計画推進会議の御意見と今後の対応方針について

1　主な意見、指摘事項のまとめ

○このまま計画のプロジェクトの具体化が進み、数値目標等ありきになってしまうと、**市民が置き去りになってしまう**恐れがある。ワークショップ方式を活用し必要に応じて市民の意見も取り入れつつ、一丸となって推進する必要があるのではないか。

○目標の達成のため、事業に継続性を持たせるためには、市が極力事業主体にならず、民間の機運を高めていく仕組みづくりに注力すべき。**「市民が主役」が見えにくい。**

○２０２２年までに再生可能エネルギー割合１０％という高い目標を達成するには、市内の戸建４軒に１軒に太陽光発電を導入しなければならない。このための施策が優先順位に入ってこないと、**プロジェクト全体として目標達成の方向性が見えない。**

○伝わりやすい言葉に翻訳し、一丸となって目標達成に向けた機運を醸成する努力をするべき。これまでの実績も踏まえ、しっかりとＰＲをしなければならない。

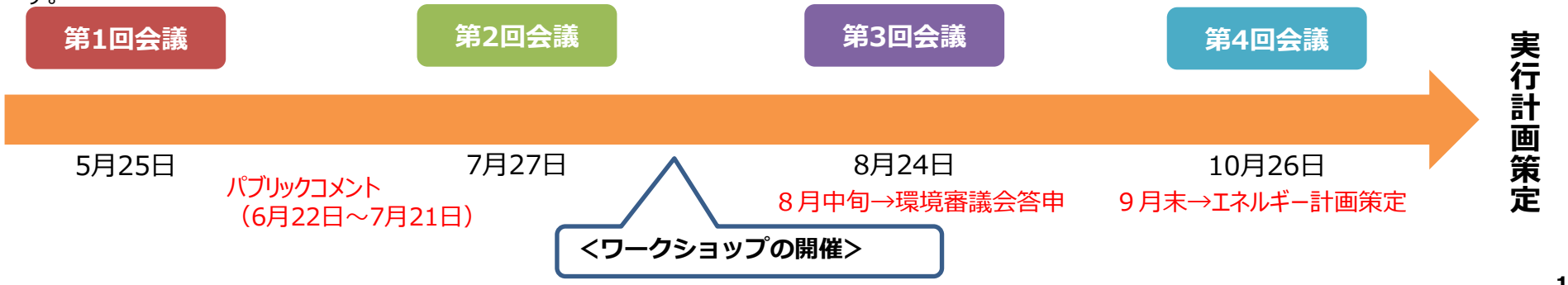
○再エネ普及にあたって、課題やとまどいのある点を解消していく努力、仕組みづくりを市は行う必要がある。

2　対応方針

⇒エネルギー計画に掲げる将来像の実現のためには、市、市民、事業者が一丸となって知恵を絞ることが重要。数値目標ありきにならぬよう、
実行計画策定中の段階から**市の取組に係る計画策定のプロセスを体感し、目標の実現に向けてそれぞれが行うべきことを自ら考え、共有するためのきっかけとする**ことを目的として、市民参加型ワークショップを実施する。

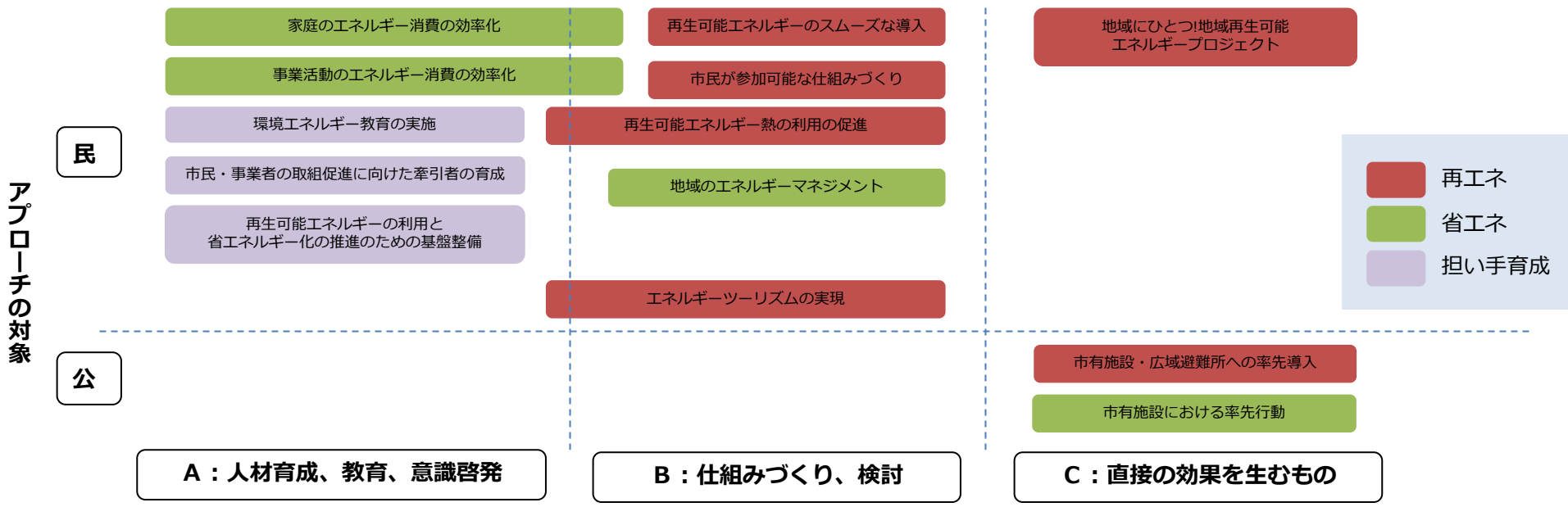
⇒計画の推進について、市の率先的行動も重要ながら、その直接的効果は限定的である。市は**市民、事業者が自律的な取組を進めていくための仕組みづくり、必要な支援**を行い、アウトカムを見据えた**波及的効果の大きい取組**を行うことが重要。リーディングプロジェクトの実施にあたっては、アプローチの対象を明確にする。

⇒目標達成までのロードマップの中で、個別のプロジェクトの位置づけを整理して提示、プロジェクト全体において目標達成の方向性を示す。



第１回エネルギー計画推進会議の整理（優先施策の絞り込み）について

○第１回エネルギー計画推進会議においては、１３のリーディングプロジェクトのうち、特に優先的に取り組む４つのプロジェクトを絞り込み、計画期間の**限られた時間の中で最大限効率的・効果的な推進を図る方向性を確認**した。



＜優先施策絞り込みの視点＞

○直接効果発現までのリードタイムは長いものの施策の実行により大きな計画推進効果が期待される、**仕組みづくり・意識啓発の段階**に係る施策

○目標達成に向け、省エネ等のポテンシャルが高いと考えられる**事業者等を対象とするアプローチ**を行う施策

○地域課題解決をインセンティブとするなど、**市民や事業者による自律的な取組の促進に有効**と考えられる施策

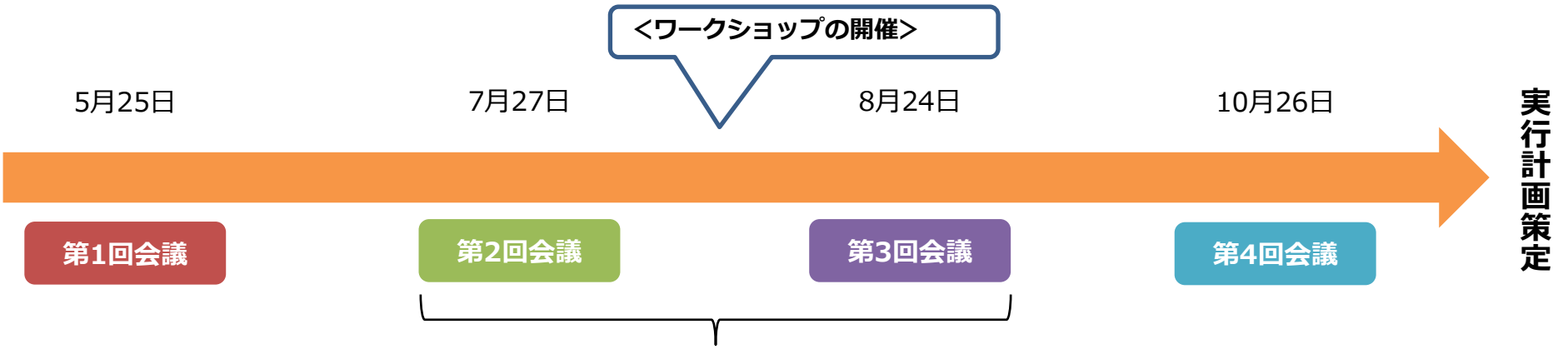
上記を踏まえ、下記４事業を絞り込み

再生可能エネルギーの導入促進	省エネルギー化の推進	担い手の育成
• 「市民が参加可能な仕組みづくり」 • 「エネルギーツーリズムの実現」	• 「事業活動のエネルギー消費の効率化」	• 「市民・事業者の取組促進に向けた牽引者の育成」

今後の議論の進め方と第２回推進会議で御意見をいただきたい事項について

1　今後の議論の進め方について

○第２、３回の推進会議では、リーディングプロジェクトのうち特に絞り込んだ４つの優先施策における個別の論点について、それぞれ意見聴取を行い、今後の施策実施に反映する。
○第４回推進会議ではそれまでの推進会議での御意見等を踏まえつつ実行計画案を提示し、実行計画案に対する意見等を聴取する。



2　第２回エネルギー計画推進会議で御意見等をいただきたい事項

○第２回エネルギー計画推進会議では、４つの優先施策のうち、特に**「市民が参加可能な仕組みづくり」**及び**「事業活動のエネルギー消費の効率化」**の施策について御意見等をいただきたい。

再生可能エネルギーの導入促進	省エネルギー化の推進	担い手の育成
・**「市民が参加可能な仕組みづくり」** ・**「エネルギーツーリズムの実現」**	・**「事業活動のエネルギー消費の効率化」**	・**「市民・事業者の取組促進に向けた牽引者の育成」**